

(1) 「左胴ヲ——撃テ」の號令で兩臂の間から對手の胴が見える程度に振り冠り、右足より踏み込み、斜右上より兩臂を伸ばし、對手の左胴に撃ち込む。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し踏み出した距離だけ退く。

(三) 注意

左胴撃は一見撃ち易い感じがするが、双筋を正して確實に撃つことは困難である。而も道具外れを撃ち易い。故に余り奨勵すべき撃ち方でないと共に多くを要求すべきでない。

左面撃

(一) 號令 左面ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

(1) 「左面ヲ——撃テ」の號令で正面撃の要領を以て刀を振り冠り、右足から右斜前に踏み込み稍右半身となり、相手の左面を斜左下に撃ち下ろす。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し踏み出した距離だけ退く。

(三) 注意

イ、双物が十分に返らないで平撃になり易いから注意を要する。



ロ、撃つた時、體を右に捻り過ぎてはならぬ。

右面撃

(一) 號令「右面ヲ——撃テ。元へ。」

(二) 要領

(1) 「右面ヲ——撃テ」の號令で正面撃の要領を以て刀を振り冠り、右足より左斜前に踏み込み、對手の右面を斜右下に打ち下す。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

(三) 注意

イ、撃ち込む時の體の轉はし方特に右足先きの使ひ方が困難であるから、十分練習を要する。

ロ、双筋を正しくするため十分手の裡を緊めなければならぬ。

ハ、左右面撃は、切り返しを行ふ場合にも必要な動作であるが、誤つて對手の鼓膜を損傷せしむる懼れがあるから、特に指導上注意を要する。

前突

(一) 號令「前ヨリ——突テ。元へ。」

(一) 要領

(1) 「前ヨリ——突ケ」の號令で兩手を一樣に絞り體を進めると同時に、兩臂を伸ばして對手の咽喉部を突く。

(2) 先づ此の突き方に習熟したならば、次に右掌を内側にかへし、刀刃を右手に向け乍ら突く要領を授くべきである。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

表突

(一) 號令 表ヨリ——突ケ。元へ。

(二) 要領

(1) 「表ヨリ——突ケ」の號令で兩手を絞り、少し右斜前に進み、刃を稍右方に向け、同時に兩臂を伸ばし、相手の左斜前より咽喉部を突く。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

裏突

(一) 號令 裏ヨリ——突ケ。元へ。





(二) 要領

(1) 「裏ヨリ——突ケ」の號令で少しく左斜前に進み、又を稍左方に向け、兩臂を伸ばし相手の右斜前より咽喉部を突く。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

(三) 注意

イ、突き技は總て手先きだけでなく、體全體にて突くやうに特に心懸けることが大切である。

ロ、熟練したら、突き終ると同時に兩手を元にかへすやうにする。斯くすれば突き技が鋭く、強くなる。

ハ、突き技は特に凄味を感じさせるもので、對手を辟易させるに十分である。それ故に、初學年に於て恐怖心を起して、態度が萎縮する懼れがある。

特に表突、裏突の如きは高學年に於てすら危険を伴ひ易いから之れが取扱には特に注意を要する。

二 應用動作

應用動作とは基本動作に對して應用的諸動作をいふのである。

初學年に於て、其の簡單にして基礎的なるものを授け、學年の進むにつれて複雑にして應用的なる

ものを授ける。應用動作は、また、基本的練習として反覆練習せしむることが必要である。應用動作は執刀で對手を設けて練習するのを原則とする。

基本動作及び應用動作の練習は、單にそれがための練習にのみ陥つてはならない。假令、基本動作、應用動作として如何に巧に行はれたとしても、試合、稽古に十分な聯關がなければ其の價値は極めて少い。即ち試合稽古を正しく行ふための基本動作であり應用動作であることを心すべきである。

二段撃 二つの異なる撃突動作を結合し、而も一聯の動作をいふ。以下之に就て二、三の例を擧げて説明する。

右籠手正面二段撃

(一) 號令 右籠手ヨリ正面ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

(1) 「右籠手ヨリ正面ヲ——撃テ」の號令で右籠手撃の要領で右籠手を撃ち、つづいて正面撃の要領で正面を撃つ。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏出した距離だけ退く。

右籠手右胴二段撃



(一) 號令 右籠手ヨリ右胴ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

(1) 「右籠手ヨリ右胴ヲ——撃テ」の號令で右籠手撃ち、つづいて右胴撃ちの要領で右胴を撃つ。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

正面右胴二段撃

(一) 號令 正面ヨリ右胴ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

(1) 「正面ヨリ右胴ヲ——撃テ」の號令で正面撃ちの要領にと正面を撃ち、つづいて右胴撃ちの要領にて右胴を撃つ。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

前突正面二段撃

(一) 號令 前突ヨリ正面ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

- (1) 「前突ヨリ正面ヲ——撃テ」號令で前突の要領で突き、つづいて正面撃の要領で正面を撃つ。
- (2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し踏み出した距離だけ退く。

前突右胴二段撃

- (一) 號令 前突ヨリ右胴ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

- (1) 「前突ヨリ右胴ヲ——撃テ」の號令で前突の要領にて突き、つづいて右胴撃の要領にて右胴を撃つ。

- (2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

三段撃 三つの異なる撃突動作を結合し、而も一聯の動作をなして居るものをいふのである。二、三の例を擧げて説明する。

右籠手正面右胴三段撃

- (一) 號令 右籠手正面更ニ右胴ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

- (1) 「右籠手正面更ニ右胴ヲ——撃テ」で右籠手正面二段撃の動作を行ひ、更につづいて右胴撃の要領



にて右胴を撃つ。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏み出した距離だけ退く。

前突正面右胴三段撃

(一) 號令 前突正面更ニ右胴ヲ——撃テ。元へ。

(二) 要領

(1) 「前突正面更ニ右胴ヲ——撃テ」の號令で前突正面二段構の動作を行ひ、更につづいて右胴撃の要領にて右胴を撃つ。

(2) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復し、踏出した距離だけ退く。

(三) 注意

イ、右の外各種の撃突動作を結合することによつて幾種かの二段撃或は三段撃の動作が出来る。是は學年の進むに従ひ、技倆の上達に應じて適宜授くべきである。

ロ、習熟するに従ひ、撃突の動作と動作との間の時間を短縮することにつとめる。即ち、一つの撃突動作の反動を利用して次の動作を行ふやうに心懸ける。

ハ、初心の間は迅速に撃突することよりも、寧ろ正確なる動作を要求するがよい。

ニ、習熟するに従ひ、一聯の動作を一氣合で行ひ得るやうに心懸ける。



正面連續擊 此の動作は劔道の基礎的練習例へば「素振り」として意味がある。尙、準備運動及び終末運動の教材として用ひる。

(一) 號令續イテ正面ヲ——擊テ。止メ。元へ。
(二) 要領

(1) 「續イテ正面ヲ——擊テ」の號令正面擊の動作を幾回も繰返す。

(2) 「止メ」の號令で撃ち方を止め。

(3) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復す。

(三) 注意

イ、最初は其の場で行ふ。しかし必ずしも足を其の位置に固定させるのではない。擊の動作に足の動作が伴ふのは自然である。

ロ、習熟するにつれて前進或は後退しながら行はしめる。

左右面連續擊 此の動作も劔道の基礎的練習として大切である。準備運動及び終末運動の教材として用ひることが出来る。

(一) 號令左面右面交互ニ——擊テ。止メ。元へ。

(一) 要領

(1) 「左面右面交互ニ——撃テ」の號令で左面撃の要領にて左面を撃ち、更に右面撃の要領にて右面を撃つ。これを幾回も繰り返す。左面を撃つと共に直ちに手をかへして右面を撃ち、これを幾回も繰り返す。

(2) 「止め」の號令で撃ち方を止め。

(3) 「元へ」の號令で「中段ノ構」に復す。

(三) 注意

イ、最初は其の場で行ふ。しかし必ずしも足を其の位置に固定させるのではない。

ロ、手のかへりが出来たなら、前進或は後退しながら行ふ。

ハ、手と足と體との三つが一致するやうに行ふ。

ニ、次の「切返」に導く準備となる。

切返 切返應ジ方 「切返」は、劔道を學ぶ者の缺くべからざる練習法である。之れにより進退を

輕捷にし、動作を輕妙自在にし、氣息を永くし、撃突を正確自在ならしめ、且、心、氣、力の一一致を致すことが出来る。「切返」は先づ姿勢を正し、氣合を籠め、大きく正面に撃ち込み、しかる後、左右



面連續撃の要領にて左右面を切り返し、又姿勢を直し、問合をはかり正面に撃ち込む。此の動作を繰り返すのである。然し指導過程上初歩の間は正面撃を省略して行ふ場合がある。

正面撃を省略する場合

(一) 號令 切返用意。始メ。止メ。元へ。

(二) 要領

(1) 「切返用意」の號令で一足一刀の間合から、打ち方は一步前進して刀を大きく振り冠る。應じ方は刀を眞直に自分の眞前に立てる。

(2) 「始メ」の號令で打ち方は左面右面と交互に連続して打ち込む。

應じ方は左面を撃つて來た時は、刀を眞直に保つた儘左胸部の前に移して應じ、次に右胸部の前に刀を移して右面撃に應ずる。此の場合姿勢を正しく特に頭を正しく保ち、應ずる毎に手の裡をしめ打ち方の刀を切り落すことなく、撃ちを引き伸ばすが如き感じにて軟かに應ずる。

(3) 「止メ」の號令で打ち方は撃ち込んだ儘、應じ方は應じた儘で止める。

(4) 「元へ」の號令で打ち方は後に退り應じ方と共に「中段ノ構」に復する。

(三) 注意

イ、先づ其の場で行ひ、習熟するに従て、前進或は後退の間に行ふ。

ロ、移動につれて間合をはかり、物打を正確に使つて打ち込むやうに練習する。

正面撃を行ふ場合

(一) 要領

(1) 打ち方は一足一刀の間合で正しく中段に構へ、氣合を籠め刀を大きく振り冠り、踏み込んで相手の正面を撃つ。

應じ方は刀を右に開き正面を撃たせる。

(2) 次に打ち方は間合をはかり左右面連續撃の要領で刀を振り冠り切り返す。

應じ方は刀を眞直に立て、呼吸を合せ乍ら左面、右面と應ずる。

(3) 打ち方は幾回か切り返した後、姿勢を正して正面へ撃ち込む。

應じ方は構を解いて正面を撃たせる。

斯くの如くして數回之れを繰り返して行ふ。

(二) 注意、

「切」は一見迂遠であるが、劍道の上達には捷徑であるから、稽古の終り或は劍道練習の前後には成るべく



「切返」を行はしめなければならぬ。

拂正面撃

(一) 號令(略す。以下同じ。)

(二) 要領

(1) 自分の刀の鎬で、相手の刀を右から拂つて切先を散らし、直ちに正面に撃ち込む。

(2) 或は左から拂つて構を崩し、正面を撃つことも出来る。

(三) 注意

イ、切先に力を入れ、切先に近い部分で相手の力を拂ふ。

ロ、拂ふと撃つとが一柏子になるやうに練習すべきである。

ハ、拂ふ要領は摺り上げるが如き感じに行ふならば正面撃の動作が迅速且つ容易に出来る。

ニ、拂ひ技は相手が静止せる場合のみでなく、相手が撃突して来た場合にも之れに應じて施すことが出来る。

ホ、相手の刀を拂ふのは、相手の正面を撃たんがためである。正面を撃つのが目的であつて、拂ふ力は其の手

段に過ぎない。故に、刀を拂ふことに重きを置き過ぎて、却て正面に撃ち込む力が抜けてはならぬ。即ち、

本末を顛倒しないやうに注意を要する。

拂右籠手撃

(一) 要領 相手の刀を左から右に拂ふと共に、踏み込んで右籠手を撃つ。

(二) 注意

籠手技は面技に比べて技が微妙であるから鋭く細くなければ功を奏し難い。

他は拂正面撃の場合の注意に準ずる。

拂右胴撃

(一) 要領 相手の刀を左から右に拂ひ、左足を前に出し、右足を引きつけ體を轉はし、左半身となり右胴を撃つ。

(二) 注意

拂正面撃の場合の注意に準ずる。

拂前突

(一) 要領 相手方の刀を右或は左から拂ひ、切先の亂れる瞬間に、手元をしめて前突の要領で十分に咽喉部を突く。

(二) 注意

此の場合は摺り上げるやうに拂つてならぬ。單純に拂ふべきである。



他は拂正面撃の場合の注意に準ず。

蹲踞跳躍左右胴連續撃 以前は之を「鳥跳び」と稱し、これを練習すれば腰の強さを増し、下腹に力があるやうになる。

(一) 要領

(1) 膝を深く曲げて蹲踞したまゝ、跳躍しながら右胴左胴を交互に連續して撃つ。

(2) 先づ右胴を撃ち、跳躍しつゝ體を轉じて左胴を撃つ。兩手を接近させて柄を握るならば手の返りが容易である。

(二) 注意

初めは跳躍のみを練習せしめ、然る後に撃ち方を加へる。

退正面撃 一般に撃突は踏み込んで行ふのであるが、間合の関係等より已むを得ず退き技を施さなければならぬ場合がある。

(一) 要領 左足より後に退きながら臂を十分に伸ばし、手の裡をしまして正面を撃つ。

(二) 注意

イ、普通撃突の場合は、右足裏は大體床板について、左足踵が多く浮き居るのであるが、退き技の時は反對に



左足は床板を踏みつけ右足踵が少し浮くのである。

口、手の裡を十分しめないとい、撃が不徹底になり勝ちである。

退右籠手撃

(一) 要領 體を稍左斜後に退きながら右籠手を撃つ。

退右胴撃

(一) 要領

(1) 右足前の撃ち方の場合は、左足より體を後方に退き乍ら、刀を大きく振り上げることなく、手をかくして右胴を撃つ。

(2) 左足前の撃ち方の場合は右足を後に退き、右足前にて體を左にかはすと共に右胴を撃つ。兩手を接近させて柄を握つた方が手のかへりがよい。

擔右籠手撃

(一) 要領

(1) 刀を左の肩に擔ぐやうにして、右足から踏み込んで右籠手を撃つ。

(2) 此の撃ち方は、此方が刀を擔ぐやうにしたために對手の心は動揺し、構が亂れる。そこをすかさ

ず強い氣分で鋭く撃ち込むのである。或は肩に擔いだ時、大きく色を見せて半ば拍子の違つたところを撃つ。

(3) 相手の構が堅くて右籠手の撃てない場合は變化して正面に撃ち込むことがある。

押右籠手撃

(一) 要領

(1) 對手が撃ちを出さんとして手元が上るところ、撃ち込んで臂の伸びたところ、其の右籠手を撃つと共に押へるやうにして、次の撃突動作を起させないやうに對手の籠手を制する。左前體を轉はして撃つ場合が多い。

捲右籠手撃

(一) 要領 互に切先を交へて立つた時、此方の刀を對手の刀の下を廻はすやうにして間合を詰め、小さく右籠手を撃つ。

(二) 注意

イ、手先の技になり勝ちであるから體を進め腰の力で撃つ氣持で間合を詰めることが肝要である。
ロ、對手の刀の上から捲く撃ち方もあるが、奨勵すべきではない。

出頭右籠手撃

(一) 要領 對手が面其の他の部を撃ち又は突いて來やうとする動作の起り頭を逸せず、稍左前に右足から出て右籠手を撃つ。

(二) 注意

イ、技を起さうとする出端は割合に隙を生じ易いものである。此の場合撃つべき機會は眞に一瞬間であるから餘程敏速に撃ち込まなくてはならぬ。

ロ、對手の撃ち出さうとする力の出始めを撃つのであるから、そんなに強く撃たなくても手の裡をしめて撃てば十分効果を納めることが出来る。尙、相手は精神的に強い衝撃を受けて、意氣頗る沮喪するものである。

出頭正面撃

(一) 要領 對手が撃ち或は突いて出やうとする出端の機會を外さず、速に跳び込んで正面を撃つ。

(二) 注意

イ、出頭右籠手撃以上に機會を逸せず、敏速に撃たなければ效を奏さない。

ロ、初めのうちは、對手が少しでも動いたならば、相撃になる積りで打ち習ふやうにせしめるがよい。

刀ヲ押ヘテ正面撃



(一) 要領 双方中段に構へて相對する時、對手が撃ち出さんとして、切尖が動く時、我が刀を以て、之れを上から軽く抑へて對手の刀を殺し、氣勢を挫き、一頓挫するところをすかさず伸びて踏み込み正面を撃つ。

(二) 注意

餘り強く刀を抑へ過ぎると、其の反動で反つて相手の刀が活き返へる恐れがあるから加減を要する。

右籠手ニ對シ拔シ正面撃

(一) 要領

(1) 相手が右籠手に撃ち來るに對し、左足より大きく後方に體を退き、對手に空を切らせ、刀の下つたところをすかさず正面を撃つ。

(2) 體を退くと共に刀は眞直ぐ上に抜いて振り冠り、其のまゝ直ちに正面に撃ち込む。

(二) 注意

イ、體を後方に退き、刀を上へ抜いた反動を利用して撃ち込まなくてはならぬ。

ロ、抜くことと撃ち込むことが一拍子に出来ることが大切である。

正面撃ニ對シ拔シ正面撃

(一) 要領

(1) 對手が正面に撃ち來るに對し、刀を振り冠ると共に、左足から大きく後方に退いて、刀と共に體を以て抜き、相手の刀が空を切つて下つた瞬間、すかさず正面を撃つ。

(2) 刀は眞直ぐ上に抜いて振り冠り、其のまゝ直ちに撃ち込む。

(二) 注意

イ、所謂肚が出来ないと成功しない技であるから、低學年には困難である。

ロ、前項の注意に準ずる。

右籠手ニ對シ拔右籠手撃

(一) 要領

(1) 對手が右籠手に撃ち來るに對し、左足から斜左後方に體を退くと同時に、手元を引き切尖を下げて對手の刀を抜く。

(2) 對手の刀が空を打つて、臂が伸びて居るところを右足から踏み出し、刀を半ば振り上げて右籠手を撃つ。

(二) 注意

